



▼『ジャパンアズナンバーワン』と日中友好



エズラ・ヴォーゲル氏

コロナとの戦争の中、昨年12月に亡くなったエズラ・ヴォーゲルは、『ジャパンアズナンバーワン』(1979年刊)で日本を賞賛しました。

『日本人』の高い学習能力と『日本企業』の終身雇用、年功序列、企業内組合といった『発展を支える要因』を高く評価したのです。日本の大企業は世界のトップ企業に名を連ね、当時日本のGDPは中国の6倍ほど。昨年、中国は日本の3倍と逆転しています。

1978年、中国は『日本に学べ』と『改革路線』に舵を切り『宝山製鉄所』などの建設に取りかかるとともに、『日中平和友好条約』を結びます。

鄧小平は大平正芳との信頼関係を活かします。大平は中国に円借款を提供、大来佐武郎を経済の講師として派遣します。経済には『安定と成長』が必要であり、そのためには『資金と教育』が欠かせません。

鄧小平は1978年10月に来日、新幹線に乗り新日鉄、日産自動車、松下電器などを見学。『日本を見て、近代化とは何かがわかった』と喜びを語ります。

日本に大平正芳、大来佐武郎、稲山嘉寛、河合良成、中国に鄧小平、周恩来、谷牧などの『にんげん』がいたのです。

日本に大平正芳、大来佐武郎、稲山嘉寛、河合良成、中国に鄧小平、周恩来、谷牧などの『にんげん』がいたのです。

▼衰えゆく国ニッポン

当時から日本は経済一流、政治三流といわれました。

あれから40年、東日本大震災で日本人のモラルの高さは世界に感銘を与えましたが、世界トップ企業には中国企業が、そして『少子高齢化の日本』の企業は・・・。

私はHP投稿418『暗愚なリーダーは国を乱し滅ぼす』をトランプ、安倍晋三をイメージして書きました。

『福島原発はアンダーコントロール』と安倍晋三は大ウソをついてオリンピックを招致し、国会答弁でもウソを数十回繰り返し、トランプは4年間フェイクニュースを日常茶飯事にばらまきつづけました。

▼真実に生きることができる社会を



石牟礼 道子氏

『苦界浄土』の著者・石牟礼道子と美智子皇后(当時)は2013年7月の白百合忌、(社会学者・歌人の鶴見和子を偲ぶ会)で隣席となり、皇后は『今度水俣へ行きます』と話されます。

石牟礼は『いらっしゃるなら胎児性水俣病の人たちに出会っていただけませんか。生まれてから一言ももの言えなかった人たちと・・・』と手紙を書きます。その年の10月両陛下は水俣で胎児性水俣病の患者たちと会い、手を取り、話しかけられ、明仁天皇(当時)は市民に『真実に生きることができるといえる社会をみんなで作って行きたいものです』と。

▼2022年2月22日22時22分22秒

『東アジア不戦プロジェクト』は、2019年西原春夫元早大総長を代表に、瀬戸内寂聴、有馬朗人、澤地久枝ら20人ほどが参集、東アジア(日本、中国、韓国、北朝鮮、台湾、モンゴル、香港、マカオ)から『人類の連帯』『対立の超克』『戦争の放棄』を実現しよう、その宣言を『2022年2月22日22時22分22秒』と千年に一度の『とき』に行おうとするもの。尖鋭化する『国』ではなく『民』の立場で不戦のキッカケにしたいと。理想主義的すぎるという批判もありますが・・・。

▼命を吹き込む自由の精神

ルース・ギンズバーグは1993年アメリカ連邦最高裁判所判事に指名され、以後28年間勤めあげ『男女平等のために女性が決断すべきだ』『社会は小さな声にも大きな声と同じくらい耳を傾けねばならない』と主張しつづけました。男女格差指数2021で日本は156か国中120位です。私は広場141号に“『強い国』より『賢い国を』”を書きました。『にんげん』『戦争への嫌悪感』を原点に、軍事的な力を背景にするのではなく、はるかに困難な外交力や知恵を生かした国をめざせと考えます。『日本国』を世界に訴える努力、機会、プレゼンスがあまりにも少なすぎます。『何より大事なのは自分の心と直感に従う勇気をもつことだ。スティーブジョブス』

(完)